

『本願寺 鹿児島別院 (その3)』

全国の別院シリーズ その37

かくれ念仏の歴史②

約300年という暗黒の弾圧を経て、明治9年9月5日、ついに鹿児島に「信教自由の令」が布達されました。本願寺は時を移さず鹿児島開教に着手しました。

幾多の苦難に耐えつづけた門徒の熱い意志により、現在の地に最初の別院が創設されたのが明治11年10月21日。その後、別院は、西南戦争罹災民救済、学校建設、殖産等、当時の鹿児島県の産業と文化の発展に寄与し、開教も着実に進みます。

そして、明治30年4月28日、6年の歳月をかけて本堂が一新されました。

ところが、昭和20年6月17日、第2次世界大戦末期の鹿児島大空襲により、別院は50年たらずにして焼失。戦後復興期、苦しい時代に仮の本堂を建立。

そして昭和57年、ご門徒の厚い意志により、南九州の聞法の中心道場として、現在の別院が再興されたのであります。

鹿児島市内を一望のもとに見渡せる城山に上がりますと、鹿児島別院以外にお寺の屋根の姿は見えません。これは、真宗禁制時代に寺院もなく、公に念仏を称えることも許されず、過酷な弾圧に耐えながら、み教えを守り抜いた真宗門徒の願いと熱意を御堂の麓に表しています。



花尾念仏洞：高さ1.4m、幅8m、奥行き4mの洞穴で、本尊や仏具を隠し、夜間に持ち出しては法座を開いていた。



穴ん婆さん：京都正光寺13代教徒の娘(久女)が坊津へ渡り住み、念仏の教えを伝えられた場所。



相星念仏洞：山深い場所にあり、念仏洞の横には川が流れている。洞窟には岩石が重なり、ガマができています。

今後の法要スケジュール

「宗祖聖人月忌」

門信徒祥月命日法要 (善教寺本堂)

五月 十六日(木) 午後一時半

*毎月十六日に本堂において勤めております。

「初参式」 (善教寺本堂)

五月 二十六日(日) 午前九時半

*善教寺仏教婦人会主催

*記念品を贈呈しますので事前に申し込みください。

「安居会(夏の法要)」 (善教寺本堂)

六月 二十二日(土) 朝席：午前十時

朝席：午後一時半

講師 松枝崇師 (東広島市河内町入野長照寺)

*送迎マイクロバスを運行します。

「夏の子ども会」 (善教寺本堂)

七月 二十六日(金) 午前十時半

*善教寺仏教婦人会主催



ご縁に感謝

善教寺ホームページ『縁』 <http://otera.or.jp/> メール zenkyo@otera.or.jp